

めい わ いけ いせき

明和池遺跡 現地公開資料

平成22年11月20日(土)

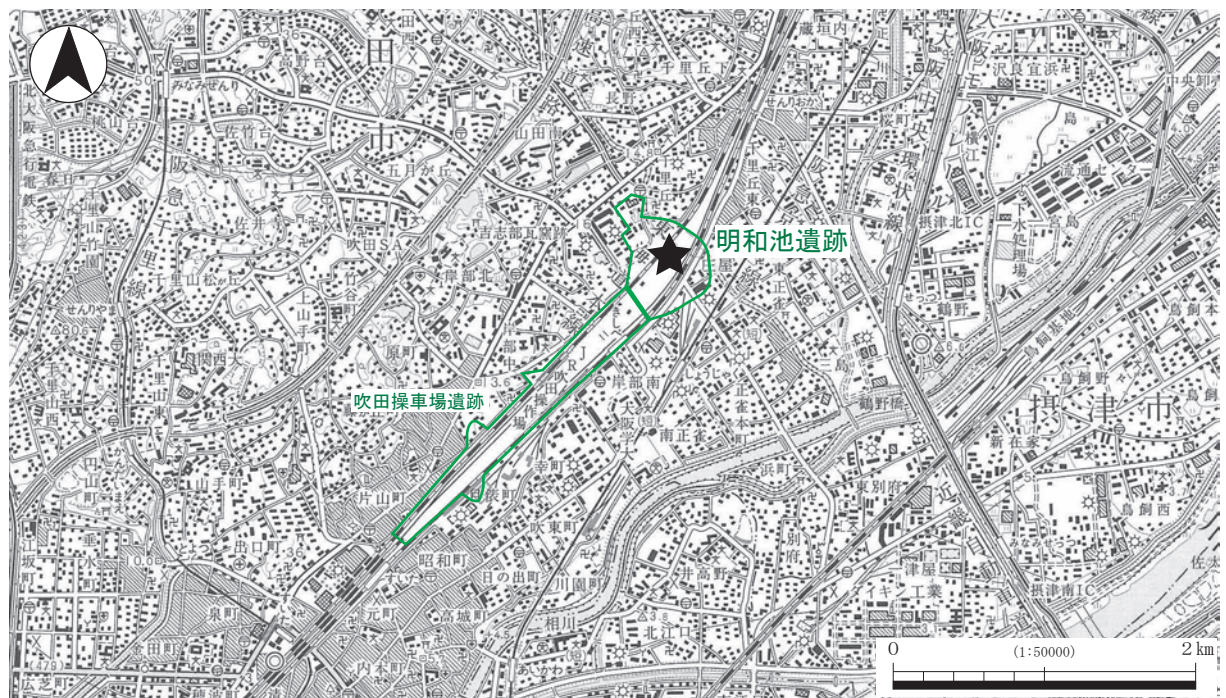
主催:摂津市教育委員会・大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター

今回の発掘調査は、吹田操車場跡地土地区画整理事業に先立つものです。吹田操車場跡地は摂津市と吹田市にまたがる広大なもので、摂津市域では明和池遺跡の範囲にあたります。

明和池遺跡は、昭和8年の工事の際、池の底から古墳時代の須恵器が数点発見され知られるようになった遺跡です。昭和62年には、民間マンション工事に先立つ本格的な発掘調査がおこなわれ、その結果、明和池遺跡のある場所は古墳時代から集落が営まれ、鎌倉時代や戦国時代まで人々の生活した場所であったことが分かりました。とくに戦国時代には大きな溝が条里型地割(古代の土地区画制度)に沿って掘られ、耕地のための用排水に使われていたようです。

平成10年と同19年・20年には、埋蔵文化財の状況を把握するため、部分的に確認調査がおこなわれました。当時の生活面からは、井戸や溝の跡、掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)と呼ばれる地面に穴を掘り、柱を立てた建物の跡などがみつき、弥生土器や古墳時代の須恵器、飛鳥時代の土器・土馬などの遺物がみつきました。

今回の調査対象地は吹田市域と摂津市域の境から東に細長く延びる部分で、調査面積は約2300㎡あります。平成22年7月からおこなわれ、現在も調査中です。本日は、この度の調査で明らかになってきた、当地域の昔の様子をご紹介します。



調査地位置

(国土地理院「大阪東北部」S=1/50000 1998年12月1日発行 に加筆)

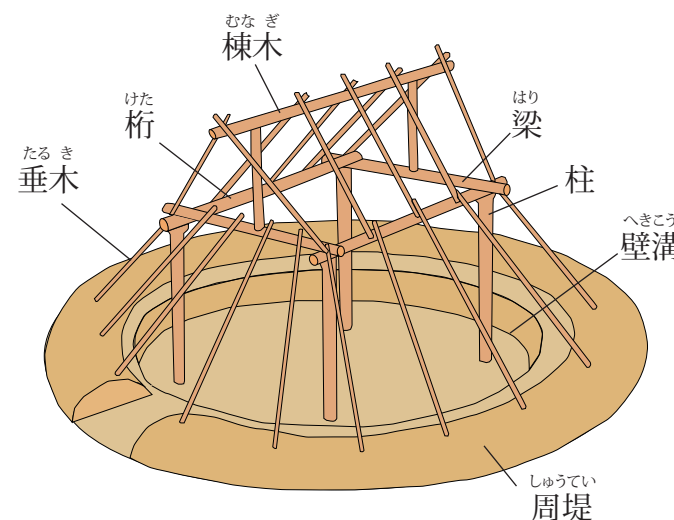
調査の成果

発掘調査は、土の断面を観察して、土の堆積状況を確認しながら掘り進めていきます。通常は、深く掘れば掘るほど古い時代の痕跡がみつかります。今回の調査では、土の断面からみると、現在の地面から1.5m程下までは吹田操車場を造った時の盛土が確認できました。さらにそこから70cm程掘り進めたところで、弥生時代後期(今から1800~2000年前)の人々の生活していた跡が確認できました。生活していたことを示すものとして、竪穴建物(たてあなたてもの)と呼ばれる、地面を掘り下げて床を造った建物が3箇所で見つかりました。同じ場所で何度か建て替えたり、補修した痕跡があり、現在のところ7棟分の平面形の四角い竪穴建物が確認できています。建物のうち大型のものは一辺が約6mあり、現在の部屋の大きさと約22畳の広さをもつ立派なものです。

また、こうした建物のすぐ脇には、当時の川の跡がみつき、川べりからたくさんの土器が出土しました。この川が生活と密接に関係していた証拠です。今回の調査では、明和池遺跡においてこれまで知ることのできなかった弥生時代後期の集落の存在を確認できたことが大きな成果と言えます。現在は東に隣接する山田川とその支流である中小河川が、当時この地域に広がり、人々はそうした河川とうまく付き合いながら生活していた風景が想像できます。



復元された竪穴建物内部 大阪府立弥生文化博物館提供



竪穴建物の構造



復元された弥生時代の集落

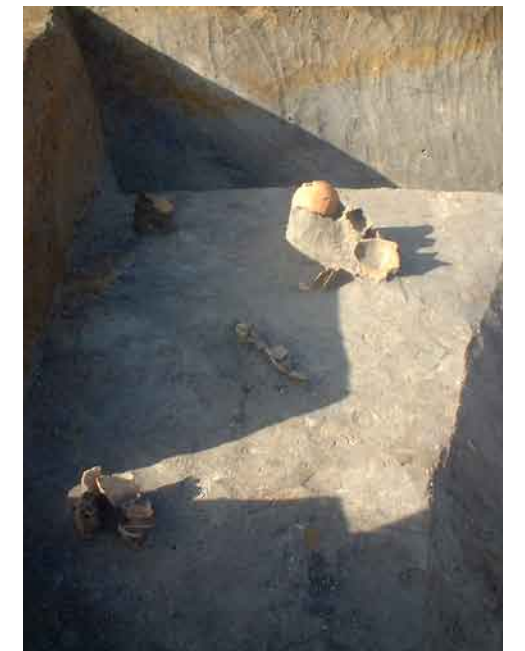
八尾市にある八尾南遺跡の調査成果を復元した模型です。明和池遺跡でみつかった竪穴建物も八尾南遺跡と同じように流路のすぐ横につくられており、似たような景観が復元されます。



調査でみつかった竪穴建物と川の跡(北から)



土器群1でみつかった弥生土器



土器群2でみつかった弥生土器



竪穴建物5・6・7(北から) 建物内部に掘られた溝が3種類みつかったので、建て替えもしくは補修がおこなわれ同じ場所で3度にわたって建物がつくられたようです。



竪穴建物2・3・4(北西から) 少しずつ東方へ場所をずらしながら3度にわたって建物がつくられました。



竪穴建物1(北西から)